

曉ぎやう
鶯おう

柳川やながわ
滄洲そうしゅう

香霧冥冥かうむめいめいとして
夜色深やしやくふかし

黃鶯啼かうおうなく
処月初ところつきめて沈しずむ

端無はしなくも
喚よび起おこす
梅花ばいかの夢ゆめ

能よく
春心しゅんしんをして
上林じやうりんに満みたしむ

【作者】柳川滄洲（一六六六～一七三二年）（寛文六年～享保十六年）・江戸時代前期・中期の儒者。摂津高槻（大阪府）の人。京都の木下順庵にまなび、師にしたがつて江戸にゆき、室鳩巢（むろきゆうそう）新井白石らとまじわる。のち京都で柳川震沢（しんたく）に師事し、柳川姓をつぐ。のち本姓の向井に復した。享保（きやうほう）十六年一月二十九日死去。六十六歳。名は三省。字（あざな）は子魯魯甫。通称は小三次。